

# 未来の子供たちに豊かな自然と安全な暮らしを手渡すために 原発に頼らない新潟の未来を共に作っていきましょう

—8/3 県主催公聴会で、会員のAさんが柏崎刈羽原発再稼働反対の立場で訴える

\*公述人として選ばれたAさんが表明した意見から一部  
抜粋・要約してご紹介します。

「福島第一原発事故から14年が経ちましたが、私たちは本当にあの事故の教訓を活かしているのでしょうか」

●**原発の安全性に対する考え方がどのように変わってきたか。**  
 ・福島原発事故前—日本の原発が事故を起こすことはあり得ないという「安全神話」  
 ・事故後—原発は重大事故が起こることを前提に、そのための対策を考えなければならぬ。  
 ・そして現在—万全の対策をしたから事故は起きないという「新たな安全神話」が生まれつつある。

●**原発事故後の福島はどうなっているか。**  
 ・復興には23兆円の予算が必要。2050年頃に復興完了の予定。しかし、廃炉作業は先が見えない。  
 ・現在なお自宅に戻れない方が2万4千人以上いる。  
 ・放射性物質を含んだ除染土の最終処分も先が見えない。



●**このような状況の中で、柏崎刈羽原発の再稼働が議論されている。**

・安全に避難が可能かどうか問題になっているが、たとえ人間が安全に避難できても、動くことのできない農地や山林、川や海等の自然環境は原発から出た放射性物質にさらされ、放射能の汚染を免れることはできない。  
 ・自然災害はすぐに救援や復旧を始められるが、原発事故では放射能の危険があるため、すぐ現場に近づくことも復旧作業もできない。

・新潟県は自然環境に恵まれ、農業や水産業が盛ん。コシヒカリや枝豆、ノドグロなどブランド化された農水産品が数多くある。しかし、ひとたび自然環境が放射性物質で汚染されてしまると、直接的な汚染のみならず風評被害も発生し、それを元に戻すのは容易ではない。是非この問題を理解して頂きたい。  
 ●**どうしたら原発に頼らない社会を作ることができるか**  
 ・再エネ電力を増やすこと。電力を効率よく使うこと。

「多くの知恵を結集して、いままで原発を推進するために使ってきた予算をこれらの分野に振り向けることによって、原発に頼らない電力の供給体制ができると思います」

## 疑問だらけの公聴会や県民意識調査 県民投票より有効だとなぜ言える?!

★県の選定委員会は、終了済みの柏崎会場を除く4会場分の公述人35人を、応募者73人の中から選定。再稼働に「賛成」6人(応募6人中)、「反対」18人(応募52人中)、「条件付き賛否」11人(応募15人中)の選び方は極めて公平性を欠いています。  
 また、「条件付き賛否」と言いますが「条件付き反対」はあり得ず、実際、「条件付き賛成」を表明しています。さらに、団体推薦の公述人の多くは「賛成」意見で、これまでに実施された地域では全体として約3分の2が「賛成」意見を述べています。あまりにも民意とかけ離れているのではないのでしょうか。  
 ★公聴会に知事は不参加、会場は非公開など県民の総意で再稼働問題を考えていく姿勢が見られません。  
 ★これから取り組む「県民意識調査」の対象は9千人。県民有権者のわずか0.2%です。

今こそ示そう! 県民の思い  
 柏崎刈羽原発再稼働許さない!!  
 9・21なくそテ原発  
 柏崎大集会に集まろう

\*マルシェで、演奏+キッチンカー・出店も  
 (詳細は同封のチラシをご覧ください)



9月のアオーレ前宣伝行動は9月11日(木) 16時~16時30分 \*ぜひご参加を!

原発ゼロ長岡市民ネットニュース

第161号 2025年8月18日発行

連絡先 広井洋子 長岡市寿2-5-15

電話・FAX 0258-24-2870

佐藤 090-4925-3707